

一 対象 中学生

二 主題名 真の友情

三 ねらい

友情の尊さを理解して心から信頼できる友達を持ち、互いに励まし合い、高め合う。

(2―③)

四 発達の段階と資料の特質

○ 中学生は、お互いに喜びや悲しみなどを分かち合い、打ち明け合えるような、心から理解し合える友達を求める時期である。しかし、些細なことでもけんかしたり、欠点ばかり目についてしまったりするなど、相手の気持ちを考えながら付き合うことに難しさを感じる時期でもある。自分の感情をコントロールし、相手を尊重して真の友情を育んでいく態度を培うことが重要である。

○ 本資料は、部活動に所属し、毎日の練習に熱心に参加している中学校三年生の女子生徒が主人公である。口蹄疫の影響で、最後の大会に向けて最善を尽くすことができないう状況にある中、友達が家で飼っている牛を殺処分されることで辛い日々を過ごしていることを知る。主人公の心情の変化を通して、真の友情について考えさせ、励まし合える友達よさを実感させることができる。

五 展開例

- 1 友達にしてもらって嬉しかったことについての事前アンケートの結果をもとに話し合う。
- 2 資料「ペアなんだから」を読んで、話し合う。
- (1) 顧問の先生からゆかりのことを聞いたのぞみは、どんな気持ちになったでしょう。
- (2) 美紀と恵のペアとの練習試合に負けた時、のぞみがゆかりに渡した手紙にはどんなことが書いてあったでしょう。
- 3 心のノート「太陽みたいにきらきら輝く生涯のたからもの・互いを高める友情はどこにある？」のページを活用し、これまでの友達関係についての経験を発表し合う。
- 4 教師の学生時代の友達関係についての説話を聞く。

六 指導上の留意点

- 主人公の心情の変化に共感させ、相手の気持ちを考えながら人と付き合っていくことの大切さに気付かせたい。
- 自分自身の友人関係を見直し、改善していこうとする意欲をもたせたい。

七 参考資料等

○ 「口蹄疫」非常事態宣言では、県民に対して不要不急の外出を控える旨の依頼が出ていたが、本資料では主人公のテニスにかけたい思いを強調するため、あえてフィクションとして、テニスの練習のために車で外出する内容を挿入している。